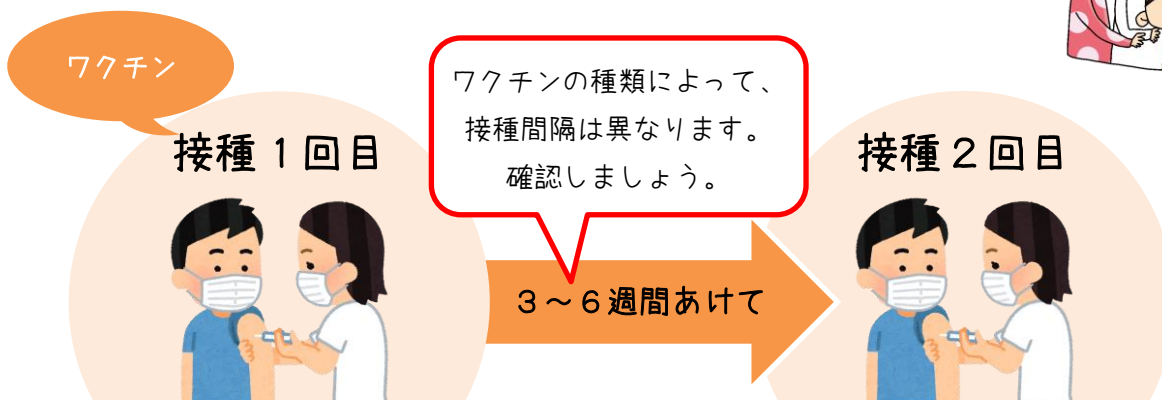


接種券が届いたら、近隣のクリニックや集団接種会場で予約し、接種しましょう。

- 当院で夏休み中に新型コロナワクチンを接種することはできません。早くても9月以降となります。8月中旬以降に病院ホームページでご案内しますので、ご確認ください。
- 新型コロナワクチンの接種対象は12歳からです。
- こども達の新型コロナは、7割が家庭内の成人（両親や祖父母）から感染します。病気を抱えるこども達にうつさないように、ご家族がワクチンを接種することをおすすめします。
- 2回目の接種後は、こども達も倦怠感が出ることも多く、2割の方で発熱します。保護者とお子さんが同じタイミングで接種すると、同じタイミングで発熱するかもしれません。2回目はタイミングを数日ずらすことをおすすめします。



- 1回目と2回目は、同じ製薬会社のワクチンをうちましょう。
- 接種当日と翌日は、可能なら予定を空けておくことをおすすめします。
- お子さまと保護者のワクチン接種のタイミングは、数日ずらすことをおすすめします。



当院における新型コロナワクチンQ&A

Q. 「こども病院で新型コロナワクチンをうてますか？」

A. 残念ながら、こども病院では夏休み中に新型コロナワクチンを接種できません。

定期受診の患者さんと付きそいのご家族で混雑しており、3密状態になってしまうからです。自治体からワクチンの接種券が届いたら、近隣のクリニックや集団接種会場で予約をとり、接種しましょう。当日は、御自身の保険証、お薬手帳、母子手帳を持参しましょう。問診でご病気について質問をされたら『こども病院からは基礎疾患のある方は打つようにすすめられた』と伝えましょう。

当院でも接種できるように準備をしていますが、早くても9月以降となります。8月中旬以降にホームページでご案内しますので、ご確認ください。

Q. 「病気のこどもでも軽症が多いと聞きました。それでもワクチンを接種したほうが いいですか？」

A. こどもは大人と比べて、1日1日の経験が将来や人生に大きな影響があり、チャンスにつながります。こども達にコロナに束縛されない日常生活を取り戻しましょう。

こどもの新型コロナは無症状・軽症が多いですが、10日間の隔離は大きなストレスになります。基礎疾患のある方は、原病の治療も延期になることがあります。また、頻度は低くても重症化して集中治療をすることがあり、そのなかの1つに小児多系統炎症性症候群（MIS-C）があります。症状としては感染後に免疫が過剰に反応して全身の臓器にダメージがでる重篤な状態となり、12-17歳で多いことが分かっています。日本では死亡例はありませんが、集中治療したこども事例が報告されています。

Q. 「新型コロナワクチンの効果はあるのでしょうか？副作用も心配です。」

A. 現時点で流行している変異株にも効果があることが分かっています。

アメリカで2,260人の健康な12-15歳のこども達が調査に協力してくれました。

1,130人ずつのグループに分かれ、一方にはファイザーのワクチンを、一方には水を注射しました。大人と同じスケジュールで3週間間隔をあけて2回うちます。接種後2か月間の調査で、水を注射したグループは、16人感染しましたが、ワクチンをうったグループは誰も感染しませんでした。ワクチンをしたこども達は血液検査でも大人と同様に免疫が出来ていました。

副作用は体が免疫を作るプロセスです。大人と同じで、打った場所の痛みはほぼ全員にでますが、1-2日でよくなります。半分以上の方でだるくなり、頭痛がします。また2割の方が発熱します。2回目の後に症状が強くなりますが、いずれも、1-2日で消失し、アセトアミノフェンなどの普段使用する解熱鎮痛剤で楽になります。重度のアレルギーは7万人に1人の割合で出ます。アレルギー症状がでたときは速やかに処置が必要なので、15分は会場で症状の観察をします。

専門診療科で定期受診をしている方へ

病気のあるこどもは新型コロナウイルス感染症で重症化するリスクがあり、ワクチンでその重症化をふせぐことが期待されています。小児の新型コロナワクチンの情報も、質の良いもの、悪いものも様々にネット上にあふれています。主治医や小児科学会からの確実な情報を参考にしましょう。病気のこども達の重症化リスクはみな異なります。実際に接種するかどうかは、新型コロナウイルス感染症の発症リスクを考慮し、ご家族と主治医で判断していただきます。

●アナフィラキシーの既往がある方へ

接種できます。問診票に記載して問診医に報告し、指示に従って接種後の症状観察をしてください。ただし、ポリエチレングリコールでアナフィラキシーが出たことがある人だけは接種できません。

●注射で倒れたことがある方へ

緊張しすぎてドキドキしたり、一瞬気をうしなつて（迷走神経反射）倒れたりすることがあります。ワクチンそのものではなく針を刺すことによる緊張や不安が原因です。ご家族が付き添って、転倒によるケガを予防しましょう。問診医に申告し、寝た状態で接種できるか相談しましょう。

●化学療法や造血細胞移植を受けた方へ

小児がん治療後の接種は可能です。強力な治療後3か月以上経過してからの接種が望ましいですが、接種の機会を逃さないことも大事です。同種造血細胞移植後は、移植後6か月以降で免疫抑制剤投与がない場合が望ましいですが、その条件を満たさない場合でも重症化を防ぐためワクチンを接種するのは重要です。

●免疫抑制剤薬を投与している方へ

重症化リスクが高く、接種で予防することが重要です。生ワクチンではないので免疫抑制治療をしていても安全にうてます。接種の前後で免疫抑制薬を変更する必要はありません。免疫抑制薬の使用により、アナフィラキシーなどの重篤な副反応が増えることもあります。リツキシマブ（商品名 リツキサ）は抗体をつくる細胞を減少させますので、接種時期には注意が必要かもしれません。ステロイド薬の投与量が多い方は、接種時期を調整することがあります。

●慢性腎臓病の方へ

免疫抑制剤を内服していなくても、慢性腎臓病（尿異常、血液検査、画像診断、病理所見で腎障害が明らかな方、原因不明の腎機能低下（eGFR60未満の方）は、重症化リスクが高く接種で予防することが重要です。

●凝固因子の補充療法をしている方へ

筋肉内注射なので、現在定期補充療法を行っている方は、接種日に合わせて凝固因子活性値を上げてください。軽症、中等症で出血時投与を行っている方は、接種前に予備的補充療法を行ってください。エミシズマブ投与中の方は、第Ⅷ因子製剤、活性型第Ⅶ因子製剤の投与を行った上での接種をお勧めします。具体的な投与量は主治医に相談してください。

●抗血小板薬（パナルジン、アスピリン、バファリンなど）抗凝固薬（ワーファリン）を内服している方へ

抗凝固薬（ワーファリン）を内服している場合は、筋肉注射の部位に出血して血腫をつくる可能性があるため、接種部位をもまないこと、2分以上圧迫して止血をすることなどが推奨されています。抗血小板薬を内服している場合も、ワーファリンほど出血の可能性が高いわけではありませんが、同様の注意は必要です。

集団接種会場・クリニックの先生方へ

こども病院では、12才以上の病気のあるこども達に新型コロナワクチンの接種をして重症化を予防するようすすめております。主治医の署名が入った問診票を持参した際には、積極的に接種をお願い致します。

当院でのワクチン接種については、8月中旬以降にホームページをご確認ください。

QRコードはこちら →

